

わーく&らいふ

令和4年12月21日 進路指導部 発行

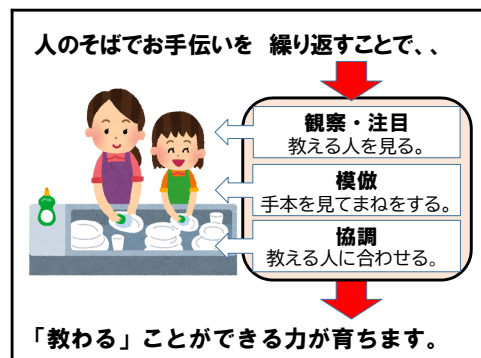
■CONTENTS■

★年末年始大作戦 ～親子一緒に活動で「教わる」力をアップ！～

もうすぐ冬休み、そして年末年始。「大掃除」や「片付け」など、この時期ならではの年中行事もあります。ご家族の皆様も年末年始休暇で、いつもより余裕をもってお子様と向き合い、ともに活動できる時期ではないでしょうか。

今回の「わーく&らいふ」は、毎年恒例の記事、長期休業中の「親子活動のススメ」です。親子と一緒に取り組む活動の、大きな意味について解説します。

■親や家族と「一緒にする」が育む重要な力



左図をご覧ください。「お手伝い」など、人と「一緒にする」ことが、学びの力（「教わる」ことのできる力）を育むことを表しています。

「教わる」とは、手本を見て（観察・注目）、真似をしながら行動し（模倣）、その時間を相手に合わせる（協調）ということです。このことは、学習のために重要なスキルで、いろいろな事の基本です。また、教わる相手がお母さんだったり、お父さんだったり、ときにはきょうだいだったりと、一緒に活動する相手が変わることも大切な学びとなります。「一緒にする」活動は、「お手伝い」に限らず、お子様との時間の中にいろいろあります。たとえば、絵本の読み聞かせ、運動、ものづくりなどにも、「教わる」場面が必ずあり、同様の効果があります。

年末年始の余裕の時間を使って、ぜひいろいろな活動にチャレンジしてみてください。

次に年末年始大作戦に当たっての取組のポイントをご提案します。

◆ポイント1 「冬休みのスケジュール・目標づくりからスタート」

冬休みはまず「スケジュールと目標づくり」からスタートしましょう。起床時間や活動の順序など1日のスケジュールを具体的に決めます。これにはお子

様も交えた話し合いで決めるのも大切で、本校が大切にしている「決める力」を育むためのポイントでもあります。

◆ポイント2 「いつも通りに」

「年末年始大作戦」といっても、特別なことに取り組む必要はありません。いつもは親がしている一連の家事（ゴミ出し、新聞を取る、朝ご飯の支度、片付け、洗い物、掃除・洗濯等々）を、お子様と一緒にやってみましょう。



また、年末の「大掃除」は日本人としての文化を教える機会でもあります。お子様自身の場所や物の片付け・整理あるいは断捨離を通して、身の回りの4S（「整理」「整頓」「清掃」「清潔」）を体感させましょう。



◆ポイント3 「あいさつも重点的に」

年末年始は親類などが集まる機会が多く、あいさつの機会がたくさんある時期です。大人が率先してよいお手本を見せましょう。マスク着用など、感染予防は引き続きお願いします。



◆ポイント4 「たくさんほめる」

「お手伝い」の目的は、お子さんをほめる機会を増やすためといっても過言ではありません。人は周囲からほめられる（認められる）ことで成長します。



また、認められる経験を積むことで自分自身を肯定的に見ることができるようになります。

親子で取り組む中で、できたことを、できたぶん（大げさでもいいので）しっかり認め、ほめてあげましょう。「ありがとう！たすかったよ。」「きれいになって嬉しい。」など、家族の一員としての自分を意識できるようにするのも大切です。

◆ポイント5 がんばった分と対価(報酬)の結びつけ

お手伝いと対価の結びつけにも取り組みましょう。「これをがんばったから、〇〇円のお小遣い」「冬休みに毎日〇〇できたら〇〇」という具合です。ごほうびのあげ方も、お子様によっては毎回あげる、シールをためる（トークンシステム）、お小遣い日（給料日）を決めて社会生活に近づけるなどの工夫ができます。どうぞお子様にあったやり方で取り組んでください。



編集後記

お手伝いに限らず、親子（家族）で一緒にする活動には、更に大きな意味があります。それは、活動を通じて親子（家族）関係が深まるということです。身近な人との信頼関係は、将来出会う人たちとの共感・愛着などの感情や行動へとつながり、よりよい人間関係を構築する力になります。年末年始、お子様とよい時間をお過ごしください。（文責 谷口）